

# 甲府市 農業委員会だより

発行 甲府市農業委員会  
住所 〒400-8585  
山梨県甲府市相生二丁目17番1号  
甲府市役所相生仮本庁舎  
電話 055-237-1161(内線4083)  
055-237-5892(直通)  
編集 甲府市農業委員会だより  
編集委員会



(菜の花プロジェクト:帯那地域)

## — おもな内容 —

	ページ
○ 農業委員会活動報告ほか .....	2
○ 甲府市農業賞の表彰ほか .....	3
○ 普及センターコーナー .....	4
○ 農業委員エッセイ農感記 .....	5
○ 賃借料情報、新庁舎業務ほか .....	6

第61号



(小正月行事:下向山町)

# 農業委員会活動報告

## 先進地視察研修(長野県) 松本市農業委員会及び 旧四賀村クラインガルテン

昨年11月9日に、松本市農業委員会にて視察研修を実施しました。松本市では新規就農支援について、研修用農地・農業機械の無償貸与、さらに生活資金の支援など、独自の支援体制を行っており、平成23年11月には「第14回全国農業担い手サミットin長野」が



開催されています。耕作放棄地対策についても、そばオーナー制度始め各種の事例があり、各取り組みについて、研修しました。

また、旧四賀村のクラインガルテンは有機農業を推進する、ゆうきの里づくりの活動が評価され、全国農林水産大臣賞の受賞もされています。クラインガルテンの施設見学や、運営管理について、研修しました。

## 農林水産省経営局長等との意見交換会について

平成24年10月19日に、東京都の農林水産本省内会議室において、全国の農業委員会代表者が出席しての意見交換会が行われました。

これは、農水省からの提案を受け、全国農業会議所が、東北、関東、北陸、東海・近畿、中四国の、各地

域から、代表者を7人選出して実施されました。関東地域の代表者の一人として、本農業委員会の塩野会長が、その重責を担って参加しました。



今後の国の政策検討に資するため農業委員会の立場から、農地利用集積の課題、遊休農地防止策、遊休農地解消の課題、不在地主対応、農地情報の収集方法などの項目を議題として、意見交換が行われました。

## 農業委員の研修等

毎月の総会・農地調査、運営委員会・ブロック会議・

編集委員会など各会議、農地管理及び農地の利用集積業務の他に、次の研修や行事等が実施されました。

○10月5日・甲府市役所相生飯本庁舎

埼玉県川越市農業委員会視察対応

○10月11日・甲府市役所市長会議室

次年度への市建議書提出

○10月29日・東京都慶山農業委員会会長、女性委員等会議

○11月6日・かいてらす・地場産業センター

地区別農業委員研修会

○11月7日・アイメッセ山梨

農地利用集積推進大会

○11月28日・かいてらす・地場産業センター

農政推進農業委員大会

○12月5〜6日・東京都農業委員会会長代表者等特別研修会

○1月19日・県立文学館やまなし農業・農村シンポジウム

○1月23日・甲府市南部市民センター  
愛知県犬山市農業委員視察対応

JA甲府市本店・アルプス通り支店竣工

JA甲府市では、旧飯田支所、旧貢川支所、旧池田支所の3店舗を集約し、本店機能も移転し、「本店・アルプス通り支店」として、平成24年11月26日に営業を開始しました。

住所 下飯田3-15-12

本店TEL 055-223-9600

支店TEL 055-288-8700





# おめでとうございます

## 甲府市農業賞

東光寺町 松永久造さん

平成24年度の甲府市農業賞は、東光寺3丁目の松永久造さんです。11月3日開

催の第39回甲府市農林業まつり式典において、直接、宮島甲府市長より表彰されました。



松永さんは、昭和20年代にいち早くブドウ専業農家へ切り替え、大手企業との出荷体制を確立するなど、地域ブドウ産地の興隆に尽力されてきた多大な功績に対して、栄誉が授与されま

した。農業研修生の受け入れにも、ご協力頂いており、今後とも本市農業の発展に、ご指導賜りたいと存じます。

## 関東農政局長賞

帯那地域活性化推進協議会

菜の花プロジェクト（表紙写真）等を推進している

帯那地域活性化推進協議会（末木英明会長）は、平成24年度の豊かなむらづくり全国表彰事業で、関東農政局長賞を受賞しました。同協議会は、コンビニエンスストアと交流活動に関する協定を締結して、景観維持

活動や農業体験活動を実施。菜の花を栽培し、菜種油も作っています。「那種油」の名称を付け、1本200gで1200円で販売は県内のファミ

リーマートやアマノパークス竜王店で、取り扱っています。

## 農林水産大臣賞

増坪町 萩原 一斉さん

県花き園芸組合連合会主催の平成24年度山梨県花き

品評会が、11月21日にラザウオーク甲斐双葉店で開かれ、萩原斉さんのシンビジューム（舞うさぎ）が、最高賞の農林水産大臣賞に選ばれました。



この品評会は同連合会に加盟する県内の花き栽培農家が、シクラメンや洋ラン、バラなど計113点を出品して実施されました。

## 家族経営協定を結びました。



西下条町の鷹野充さんと父の正幸さん、妻の由美さんは、平成24年11月5日に、甲府市農業センターで家族経営協定を結びました。

家族経営協定は、農事と家事等について話し合い、作業分担を始め、労働時間や給料、安全対策など、健全な農業経営に向け取り決める行うものです。鷹野さんの家族経営協定は、本市で36家族目となります。

## 農業者年金に加入しましょう！

農業者年金は、国民年金だけでは不十分な老後の家計費を、農業者が年金の形で受給できるように設けられた、公的な年金制度です。

○国民年金第1号被保険者、年間60日以上農業従事、20歳～60歳未満の農業者であれば、後継者や配偶者の方も加入できます。

○終身年金で一生受給されます。80歳前に亡くなられた場合、80歳までに受け取れるはずであった年金が遺族に支払われます。

○積み立て方式で、保険料が月額2万円～6万7千円の間で自由に設定できます。

○支払い保険料は全額、社会保険料控除の対象となり、節税効果があります。

（問）農業委員会

TEL 055-237-5892

# 普及センターコーナー

中北地域普及センター  
(中北農務事務所 農業農村支援課)  
☎0551・23・3291

## カラス対策について

鳥害は、防鳥ネットの利  
用により防止することがで  
きますが、設置労力および  
コストが大きいことから、  
広く利用されるには至つて  
いません。

そこで、山梨県総合農業  
技術センターでは、防鳥  
ネットに代わる鳥害防止技  
術を実証したので紹介しま  
す。

従来は、カラスの目に付  
きやすい光沢のあるワイヤ  
を張り巡らし  
てカラスの飛  
来を防ぐ手段  
が講じられて  
きましたが、逆  
にカラスに見  
えにくい極細  
のつや消し黒  
色ワイヤを用  
いることで、カ  
ラスが接触す  
る怖さを知り、  
近づかなくな

ることを突き止めました。

具体的には、支柱につや  
消し黒色で太さ〇・三mmの  
ステンレスワイヤを高さ  
一・七m、二・五m間隔の  
格子状(ブドウ棚の支柱間  
隔とほぼ同等)に張ること  
で、カラスの視認性を低下  
させ、ワイヤへの衝突を誘  
発させます。

また、つや消し黒色極細  
ワイヤを使用することによ  
り、園内に侵入されても、  
ワイヤ下でのカラスの滞在  
時間は大幅に減少するた  
め、被害には結びつきにく

くなります。

なお、この技術を利用す  
る際には次のような留意点  
がありますのでご注意ください。  
い。

- ① ハシブトガラス、ハシボ  
ソガラス以外の鳥類には  
効果が期待できない。
- ② スイートコーン等の畑地  
で利用する場合は畑の周  
囲に垂直な防鳥ネットを  
設置する必要がある。
- ③ 極細黒色ワイヤは人間に  
も見えにくく、ステンレ  
ス製であるため、人間が  
接触しないよう注意する。
- ④ この技術はブドウ棚、畑  
作物を想定したもののな  
で、立木果樹の場合はワ  
イヤ設置高さ、設置方法  
等未解決事項が多く、現  
状では利用が難しい。

## ブドウの病害防除について

昨年のブドウ生産は全般  
的に順調に進み、作柄は良  
好でした。しかし、べと病  
は五月上旬の連続降雨が初  
期の感染を助長したこと  
で、例年よりも発生時期が  
早かったことから、次作に  
向けた対策が必要となつて

います。

防除暦では、べと病の防  
除時期は五月上旬(展葉五  
〜六枚)からとなつていま  
すが、昨年は生育初期が低  
温・多雨で経過したために  
生育が遅れ気味となり、散  
布時にはすでに感染してい  
たものと思われれます。

べと病に対する新規薬剤  
は数種類ありますが、いず  
れもブドウのみの登録で、  
立木類には登録がないた  
め、飛散防止対策から防除  
暦への採用を控えてしまし  
た。しかし、近年は五月の  
天候不順の影響から、べと  
病が発生する事例が多く、  
防除が難しくなつていま  
す。

このため、新しい防除暦  
には、生育初期からの安定  
した防除を目的として、近  
隣に立木類がない園ではラ  
ンマンフロアブルを使用す  
るよう注意事項欄に記載さ  
れましたので予防散布の徹  
底を図っていたいただきたい  
と思います。

また、甲府市を含め栽培  
面積が拡大しているシャイ  
ンマスカットは、導入当初  
より黒とう病の発生が問題  
となつており、他品種に比

べても注意が必要です。

そのため、これまでの防  
除暦から、デランフロアブ  
ルを散布後二週間以上あけ  
て、ベンレート水和剤、加  
用石灰硫黄合剤を散布する  
か、または三回に分けて石  
灰硫黄合剤散布後に二週間  
以上あけてデランフロアブ  
ルを散布し、さらに二週間  
以上あけて、ベンレートT  
水和剤を散布する防除体系  
となつていきます。

また、耕種的な対策とし  
て、罹病した結果母枝や巻  
きヒゲなどは剪除して、圃  
場外へ持ち出して下さい。  
さらに、展葉初期にはオ  
ンリーワンフロアブルを散  
布するとともに、

この時期  
以降病斑  
の見られ  
る新梢や  
葉は除去  
し、圃場  
外へ持ち  
出すこと  
で、黒と  
う病の防  
除を徹底  
して下さ  
い。

ブドウ園における現地試験の様子



黒とう病の枝病斑





# 農感記 第二十九集

## なつかしい風景

和戸町 窪田 勝



市の東部に位置し、すぐの東どなりが石和温泉郷である。ぶどうの露地栽培では、県下一の早場地帯である。今でこそ果樹百パーセントであるが、昭和二十年代までは、米麦の二毛作を主としていた。

十一月頃収穫した米の掛干しの下に麦の種をまき、一月から二月霜の降りる時期に麦踏みをする。芽を増やす株分け等の為の作業である。五月には見事な麦穂となり収穫する。

麦を刈った田には、ピン

ク一色のレンゲ畑が現われる。又まわりの畑には、菜の花、桃の花も同時に咲き、今でも心に残る美しい風景となる。田はレンゲ草と共に耕され、水がひかれ田植が一斉にはじまる。九月頃までは、緑の海原のような景色が続く。農家の人々の並々ならぬ努力の結果、再び見事な稲穂となり、収穫し、脱穀して一年のサイクルが終る。この合間には小規模であるが養蚕もした。桑の実の甘さを思い出す。私が子供の頃あたりまえの風景であった。このカレンドーの様な美しい四季の移り変りを肌で感じていたよき時代であった。今の子供達に残せなかつた事は残念である。時代の流れと共になくなってしまった。その代り、当時とは比べ様のない豊さと、便利さを手に

入れた。今の子供達が、どちらを選ぶのかは計り知れないことである。

最近昔の生活を見直し、現代に生かそうとする試みが始まっている。和戸町では、自治会の方々の努力により、三十年ぶりに獅子舞いが復活し、道祖神祭りでも披露され話題となっている。

甲運地区も住宅の増加に加え、ほぼ中央を南北に環状線が、南側には東西に和戸竜王線が計画されている。

農業環境も大きく変わり、農地も減る一方である。この先どの様になるのかは、予測もつかないが、地域がすこしでもよくなるよう、微力ではありますが、努力していきたいと思えます。

## 孫の夜泣きに思う

西油川町 西名 武洋



新しい年を迎え、我が家は賑やかである。一歳を過ぎた孫の成長は、まさに目に入れても痛くないの言葉通りだ。ただ夜泣きは、いかに疲れて寝ていても気になる。心配性なのだろうか。目が覚め、年明け早々のアルジェリアの人的事件等、世の中の不安要因は世界中に共通して心配される。

次世代に対し一千兆円もの借金は、問題先送りも国民性かと世界に誤解を与えらる。子や孫はかわいいが、次世代へのこの無責任さは何なのか。平成も四半世紀、バブル崩壊の教訓を生かせず最低限必要な改革も怠る。我身を振り返り、自分も同様かと自嘲しきりである。

繋がり、団塊世代の就農と農地銀行推進委員の奮闘で歯止めがかかっている。

今年の農業法人の合同就農ガイダンスには、求人数の三倍以上の百七十名が来場したそう。女性の参画で六次産業化が進展、直売所に代表される元気な農業は、日本農業再生の起爆剤となるだろう。お蔭様で、私もやる気を維持している。

そんな折、国の有り方を問うTPP問題、農業団体は総決起で反対している。過去にも農業には黒船が押し寄せたが、今回は国益そのものが問われており、農業はその一部分である。国の存続なくして農業の存続はない。反対運動以上に農業再生ビジョンの構築にエネルギーを結集すべきではないか。過去には輸入サクランボ問題を乗り越え、施設化と観光農業を確立した。日本国と農業人の知恵と潜在能力、そして覚悟が試されている。孫の笑顔を見る度に、優しい爺ばかりではいられない。

(円/10a 当たり)

作物区分		甲府市平均	旧甲府市 (平坦地)	旧甲府市 (山間地)	旧中道町
水 稲	平均額	11,800	11,100	12,500	15,500
	最高額	20,100	20,000	14,700	20,100
	最低額	5,100	5,100	8,000	7,100
	データ数	159	122	19	18
野 菜	平均額	11,000	12,200	—	9,300
	最高額	20,800	21,600	—	17,200
	最低額	3,800	4,600	—	3,800
	データ数	170	104	—	66
果 樹	平均額	19,100	20,900	13,100	16,400
	最高額	35,000	36,100	28,300	25,000
	最低額	7,400	7,400	7,500	7,700
	データ数	242	174	29	37

## 甲府市賃借料情報

平成23年1月から24年12月までに締結(公告)された賃貸借における賃借料水準は、左記のとおりになっていきます。賃貸借を行う際の参考にしてください。

※1 データ数は、集計に用いた筆数です。

※2 金額は、算出結果を四捨五入して1000円単位になっています。

※3 表中の数値は、平均額±70%を逸脱するデータは除いています。

## 市役所新庁舎業務

業務開始5月7日(火)  
丸の内一丁目18-1  
農業委員会及び農政課の農業センター係以外は、新庁舎で業務を行います。  
新庁舎移転時から、農政課の電話番号が変わります。  
農政課 農業振興係  
(新) Tel 055-298-4833



## 地域農業マスタープラン(人・農地プラン)作成

次の3地域毎に、12月28日に策定されました。今後順次更新されるものです。  
・北部山付東部果樹地域  
・南部平坦地域  
・中道上九一色地域  
(問) Tel 055-242-2661

## 中山間地域等直接支払制度が実施されています

この制度は、農業・農村がもっている水源かん養・洪水の防止・土壌の侵食や崩壊の防止機能を重視し、耕作放棄地の増加など深刻な状況にある中山間地域での農業生産の維持を図り、多面的機能を確保する観点から、実施されています。  
平成25年度の協定書提出期限は、6月30日です。  
協定を希望される対象の皆さんは、農政課へ、早めにご連絡ください。

■平成24年度実績  
協定名：平瀬町ほか8集落  
協定参加者：133名  
協定農用地：急・緩傾斜  
協定面積：277,260㎡  
交付金額  
…2,790,497円

(問) 農政課 農業施設係  
Tel 055-242-2662  
(注) 5月7日(月)以降は次の電話番号に変わります。  
Tel 055-298-4836

## 表紙写真の紹介

菜の花は、3頁に掲載した帯那地域活性化推進協議会(末木英明会長)で推進している、菜の花プロジェクトの畑です。



小正月行事は、下向山町金沢地区で毎年1月14日に子供達がしている獅子舞いの様子です。今年は大雪中、実施されました。

## 編集後記

農感記へのご寄稿を始め、関係機関の皆様にご協力をいただき、ありがとうございました。